

令和8年度 八王子市立城山小学校 学校経営計画

1 目指す学校像

(1) 学校経営の基本方針

- ① 地域社会の一員として自己の存在感を高め、多様性を受け入れながらより良い人間関係を構築し、合意形成を図ろうとする児童を育成する。
- ② 学ぶことと将来のつながりに見通しをもち、自己の取組課題を認識してその解決に向け粘り強取り組むことができる児童を育成する。
- ③ 「だ・い・や」が子どもたちの中で自然に飛び交う、支持的風土のある学校
※「だ」…だいじょうぶ! 「い」…いいね! 「や」…やろう!

(2) 目指す学校像

【子どもをど真ん中に、支持的風土のある学校を目指して】

- ① 誰もが不安や脅威を感じず、安心して互いを尊重、受容し合える学校
- ② 個性や能力を活かし、一人ひとりを伸ばす学校
- ③ 教職員が切磋琢磨し、協働し、子どもを輝かせる学校
- ④ 保護者・地域に開かれ、親しまれ誇りとされる学校

(3) 目指す児童像（学校の教育目標）

【互いを認め励まし合い、自信に繋げ、前向きに挑戦する児童を目指して】

- ① かしこい子（基礎基本、思考力、判断力、表現力）
- ② やさしい子（多様性の尊重、協調性、規範意識）
- ③ たくましい子（健やかな心身、挑戦への意欲と粘り強さ、望ましい食生活）

(4) 目指す教職員像

【プロとしての誇りをもち、使命感をもって児童・保護者・地域から信頼される教職員を目指して】

- ① 向上心をもち、自己の資質向上に努める教職員。
- ② 職務に誠を尽くし、互いが切磋琢磨するとともに、組織的に協働する教職員。
- ③ 児童一人ひとりを認め、その子の資質や良さを信じ、粘り強く向き合う教職員。
- ④ 地域の歴史や文化、自然などの学習資源を生かした教育を推進する教職員。

(5) 保護者・地域への願い

【子どもをど真ん中にして関わり合う、よきパートナーとして】

- ① 支持的風土があり、子どもをみんなで教え育てようとする保護者・地域。
- ② 子どもの未来やキャリアに関心をもち、みんなで見守り育てようとする保護者・地域。
- ③ 学校と連携し、子どもの学力向上や基本的な生活習慣定着に取り組もうとする保護者・地域。

2 中期的な目標と方策

昨年度までの中期的な目標を継続するとともに、一部整理修正して以下の事項に取り組む。

(1) 学力向上を目指して

- ① 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる。
 - ・朝の短時間学習や週2回の補習学習の時間を中心に、ドリル系アプリ等を活用して反復練習に取り組ませる。
 - ・はちおうじっ子ミニマムの結果から習得状況を精査し、指導の重点を明確にして、継続的に取り組ませる。
 - ・家庭学習の習慣化を図る取組を実践する。(家庭学習のすすめ・自主学習ノート)
- ② 課題解決するための思考力、判断力、表現力を育成する。
 - ・主体的・対話的で深い学びを実現するために学習のプロセスを重視する。
(課題を把握する→解決の方法を考え自分で取り組む→他者と協働して学ぶ→学びを振り返る)
 - ・各学習プロセスにおいて一人一台の学習用端末を効果的に活用するため、校内研究や研修に取り組む。
- ③ 個性や能力を生かし、一人ひとりを伸ばすための授業改善に取り組む。
 - ・体験的な学習を重視する。(地域との連携、関係諸団体との連携、多様なゲストティーチャー)
 - ・はちおうじっこキャリア・パスポートを活用して、自分のキャリアと関連付けながら学びや生活を思い描いたり振り返ったりできるようにする。
 - ・肯定的な評価や支援を継続する。また、教師の受容的・共感的・肯定的な児童理解を進める。
- ④ 令和9年度の教科担任制実施に向けた取り組みを推進する。
 - ・6年生を中心に、国語・外国語・社会の教科担任制を実施し、定着を図る。

(2) 健やかな心身の育成を目指して

- ① 子どもの生命や安全を守る。(安全・安心なくして教育なし)
 - ・いじめの早期発見と解決に努めるとともに、いじめをしない傍観しない集団を育てる。
 - ・日常的な校舎、遊具の点検、避難訓練や交通安全指導を徹底する。
 - ・警察、外部機関と連携し、発達段階に応じた内容でセーフティ教室を実施する。
 - ・生活指導夕会での情報共有と全校一斉の指導を徹底し、けがの発生件数を減らす。
 - ・家庭と連携してSNSルール指導を推進し、メディアリテラシーを醸成する。
 - ・大規模地震に備え、引き渡し訓練を年度の早い段階で実施する。
- ② 児童の多様性を認め、かかわり合いを大切にする教育に取り組む。
 - ・児童同士の言葉のやり取りを丁寧に指導し、支持的風土のある集団を育てる。
 - ・多様性の認め、他者を思いやる心を育成する。
 - ・人権尊重、生命尊重の教育を推進する。
- ③ 生活指導の徹底を図る。
 - ・いじめ等の子どもの問題行動についてはいじめ対策委員会で情報共有、対応を検討し、早期解決に向けて全職員で取り組む。担任一人で抱え込むことがないようにする。
 - ・相手を見て挨拶する態度、学校のきまりを守る態度の育成を重視して指導する。

- ・地域や家庭と連携し基本的な生活習慣定着の徹底を図る。
- ④ 教育相談と校内支援体制を充実させる。
 - ・特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に、特別支援校内委員会を随時開催し、支援を要する児童への組織的な対応を図る。
 - ・特別支援教室専門員や校内別室指導支援員、スクールカウンセラーを活用し、校内支援体制の充実を図る。
 - ・不登校傾向にある児童にはそれぞれの段階をふまえながら保護者と丁寧に連絡を取り合い、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも、切れ目のない支援につなげる。
- ⑤ 特別な教科「道徳」の充実を図る。
 - ・道徳授業公開講座では全学級が道徳授業を公開し、地域や保護者と意見を交換する。

(3) 特色ある学校づくりを目指して

- ① 学校運営協議会を中心に地域、PTA、学童と連携し、これまでの事業を推進し発展させる。
 - ・子ども食堂（月に1回）の実施し協力し、地域との連携を推進する。
 - ・サタデースクール（学期に一回）の充実を図る。
 - ・5年生による八王子城跡に関する学習や2・3年生の地域学習を推進する（年間）。
- ② 中高一貫教育の充実を図る。
 - ・小中一貫教育の日を活用して、相互の授業参観、教員同士の協議や情報交換を実施する。
 - ・中学2年生の小学校職場体験、小学校6年生の部活動体験や中学校授業見学を実施する。
 - ・中学校教員による小学校6年生出前授業を実施する。
 - ・同じ中学校に進学する小学校と児童間交流を推進する。
 - ・八王子城跡や地域についての探究活動を中心に、実社会や未来との接続を促すキャリア教育を推進する。
- ③ 地域の学習材を活用し、体験活動の充実を図る。
 - ・文化財課や八王子城跡案内者、地元の産業に携わる方々と連携し、地域理解を推進するとともに、特色あるキャリア教育を推進する。
 - ・学校運営協議会を中心に地域、PTA、学童と連携し、恵まれた自然を生かした体験学習を推進する。
- ④ 異学年交流活動を推進し、子ども同士の規範意識を育み、キャリア教育を推進する。
 - ・月に1度、色別班活動（異学年交流活動）を実施する。
 - ・色別班単位で大縄跳びや短縄跳び、全校遠足を実施する。
- ⑤ 情報教育を推進する。
 - ・学習用端末や情報機器を正しく活用する態度を育成する。
 - ・「八王子市版 GIGA スクール構想」の基、学習用端末の日常的活用を図る。また、ドリルアプリによる家庭学習の充実、教育相談や非常時の運用等を図っていく。
- ⑥ 読書指導の充実を図る。
 - ・学校図書館担当や司書を中心に、全職員で児童の読書環境充実を図る。
 - ・図書ボランティアと連携し、教員や保護者による読み聞かせ、図書室の環境整備を推進する。
- ⑦ 国際理解や英語教育を推進する。

- ・5・6年生の外国語、3・4年生の外国語活動を通じ、英語をつかったコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・地域の人材や外部講師をゲストティーチャーとして招き、国際理解教育を推進する。

(4) 信頼される学校づくりを目指して

- ① サービスの厳正を図る。
 - ・USBメモリーの紛失、個人情報の漏えい、自動車事故、体罰、セクハラ猥褻行為を防止する。
 - ・公金や私費は適正に管理する。業者との癒着を防止する。
 - ・勤務時間の厳守、年休の事前承認、出勤簿の押印、名札の着用、週案簿の提出、出張先からの復命、出退勤入力などの凡事を徹底する。
- ② 服務事故研修計画に基づき、月1回以上の研修（ミニ研修を含む）を実施し、具体的な事例を共有しながら、学ぶようにする。
- ③ 保護者・地域からの相談や要望には、全ての職員が丁寧に対応できるようにする。

(5) 開かれた学校を目指して

- ① ホームページ、学校便り、学級だより等を通して、地域や保護者に対して積極的に学校の情報を提供する。
- ② 保護者や地域、学校運営協議会委員からの「学校評価」、学校運営協議会委員から提案された意見等を積極的に取り入れながら、学校経営、学校改善に努める。
- ③ 学校施設の安全面、衛生面の点検整備を確実にを行い、地域の施設活用を推進する。

(6) 家庭教育の充実を目指して

- ① 保護者会やPTA運営委員会等を通じて、家庭教育や家庭間連携の大切さを折にふれて伝え、理解を得るようにする。
- ② 家庭学習の習慣付けの意義と内容、方法について具体的に伝えながら、協力を得るようにする。

(7) 学校組織の改善を目指して（職員全員が年度末を迎えられるように）

- ① 学校の課題に対して全教職員が一丸となって取り組む。一人で抱え込ませない。
- ② 情報や方針の共有を徹底し、校長・副校長・主幹教諭・主任教諭・教諭・各職員の意思疎通が図れるようにする。
- ③ 意見を述べやすく同僚性の高い教職員集団を育て、ボトムアップが図れる学校組織にする。
- ④ 毎朝の副校長、主幹教諭との打ち合わせ、月2回の企画会を重視し、密に情報を共有しながら学校を運営するとともに、学校運営の視点や考え方を養う。
- ⑤ 保護者や地域のニーズに応えられるよう、常に情報に耳を傾けるよう努める。

3 令和8年度の取組目標と方策

(1) 学校経営の重点

① 自ら学び考え、判断する児童の育成

<数値による指標>

- ・保護者の「分かりやすい授業が行われ、学力の定着がある」を90%以上にする。
- ・児童の「授業の内容はよくわかる」を90%以上、
「ルールを守り学習用端末を自分の学習に役立てている」を90%以上にする。

② 規範意識を身に付け、自分も周りの人も大切にす児童の育成（最重点）

<数値による指標>

- ・保護者の「子どもの学級は落ち着いて学習生活できる雰囲気である」を80%以上にする。
- ・児童の「自分のクラスは落ち着いて学習生活できる」を70%以上、「自分は、言葉をはさまずに話を最後まで聞いている」を90%以上にする。

③ すすんで心と体を鍛える児童の育成

<数値による指標>

- ・児童の「大縄跳びなどの体力づくりに、目標をもって取り組んでいる」を80%以上にする。

(2) 学校経営の重点を達成するために取り組む教育活動

① 小中一貫教育

義務教育9年間の認識に基づいた教育課程の編成し実施する。学習活動・特別活動・生活指導において中学校との協議連携を図る。八王子城跡や地域についての探究活動を中心に、実社会や未来との接続を促すキャリア教育を推進する。

② 特別支援教育、いじめ対策、不登校対策

週に1回実施する各専門委員会が中心となり、組織的な対応を進める。また、必要に応じて外部機関と連携を図るなど、個々に応じた対応を進める。

③ 授業改善と学力の向上

基礎的・基本的な内容の定着を最重視する。モジュールの時間やぐんぐんタイムやふれあいタイムによる補習学習、ドリル（含ドリル系アプリ）等による反復学習、宿題等の家庭学習に注力する。思考力・判断力・表現力を育成するために、アクティブラーニングの実践とICTの日常的な活用を中心に授業改善を進める。

④ 規範意識と支持的風土の醸成

時を守り、場を清め、礼を正すことを基本に、落ち着いて学び生活する態度を身に付けさせ、学校の支持的風土を醸成する。

⑤ 各行事、児童会活動と色別班活動

児童の自主的・実践的な活動に向けて「意図的な指導」を進める。「何のための活動か」「目的を達成させる内容か」を明確にし、相手意識ももたせながら取り組ませることにより、学校生活の改善・向上につなげる→例年しているという意識からの脱却

⑥ 体力づくりの取組

これまで実践してきた大縄跳びや短縄跳び取組を継続するとともに、体力テストの結果を検証して課題を明確にし、体育の時間や休み時間を活用して全校的に取り組む。

⑦ 教科担任制実施に向けた準備を進める。

教科担任制の試行を拡大し、実践例を共有しながら課題を整理する。